

2022 年度「野生生物と社会」学会 総会 次第

日時：2022 年 10 月 29 日（土）12:30～13:30

場所：酪農学園大学

1. 会長挨拶（鈴木会長）
2. 【議決事項 1】2020 年度事業報告・決算報告および監査報告（資料 1：事務局、監事）
3. 【議決事項 2】2021 年度事業計画・予算計画（資料 2：事務局）
4. 【報告事項 3】第 9 期役員選挙開票結果（資料 3：事務局）
5. 【報告事項 4、5】学術誌およびフォーラム誌発行状況（各誌編集委員長）
6. 【報告事項 6、7】活動報告：青年部会、行政研究部会（資料 4、5：各部会長）
7. 【報告事項 8】野生動物管理コアカリキュラム検討 WG（資料 6：鈴木会長、吉田副会長）
8. 【報告事項 9】「野生動物の保全と管理の事典」（仮称）出版について（資料 7：梶理事）
9. 【報告事項 10】環境社会学会との共催企画について（資料 9：事務局）

資料1

2021年度「野生生物と社会」学会事業報告・会計報告

2021年度末（2022年3月末）会員数：465名（詳細は次頁および資料3を参照）

1. 会議

理事会	2021年 5月 9日	オンライン会議
	2021年11月 3日	オンライン会議
総 会	2021年11月 6日	オンライン会議

2. 大会

第26回大会	2021年11月3日-11月7日	岐阜大学（オンライン大会）
--------	------------------	---------------

3. 学会誌等

学術誌	2021年通年	9巻発行
	2022年 3月	9巻冊子体発行（賛助・団体と希望会員の有償配布）
フォーラム誌	2021年 8月	26巻1号発行
	2022年 3月	26巻2号発行

4. 部会活動等

青年部会	2021年11月	Speed talk session～学生・若手の研究交流会～
行政研究部会	2021年11月	鳥獣行政に必要な人材の配置と育成 ～鳥獣担当職員配置の光と影～

5. 表彰

該当なし

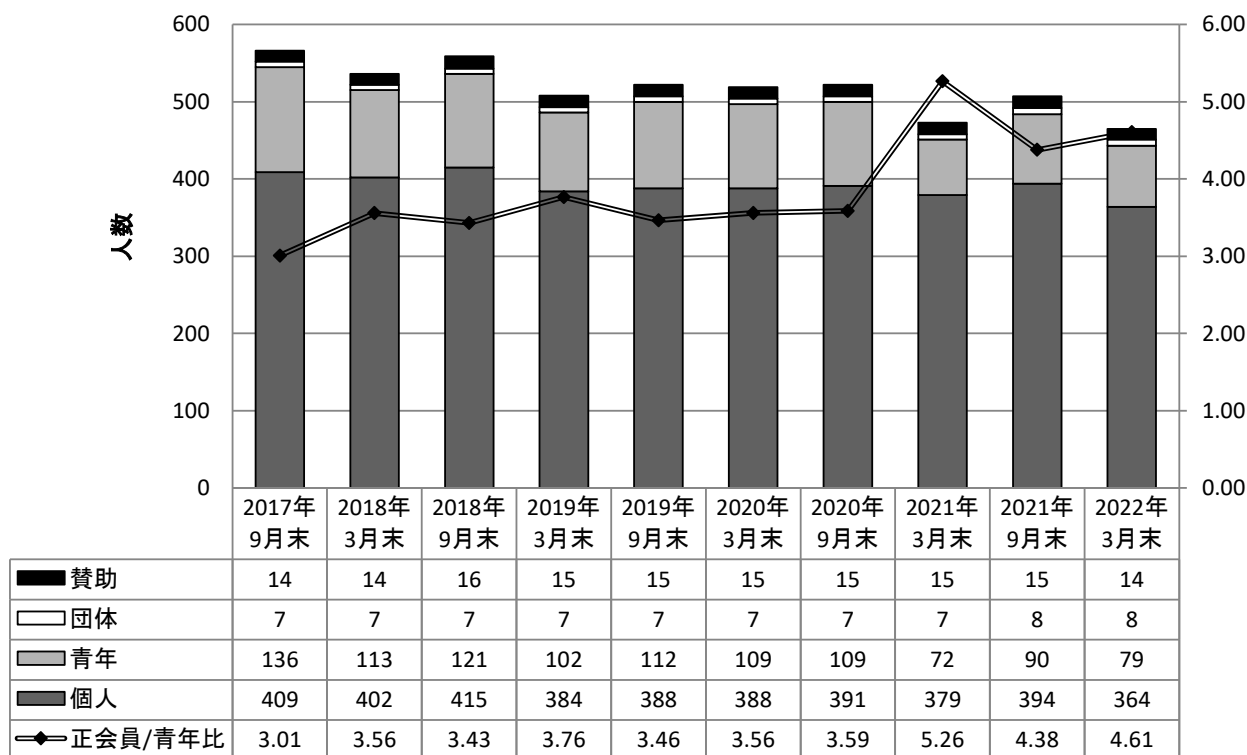
6. その他

2021年11月	環境社会学会との合同セッション開催 「野生動物の観光利用をめぐる「軋轢」一保全・観光・獣害」
2021年12月	環境社会学会研究集会へのコメンテータ派遣
2021年11月～	野生動物管理コアカリキュラムWG

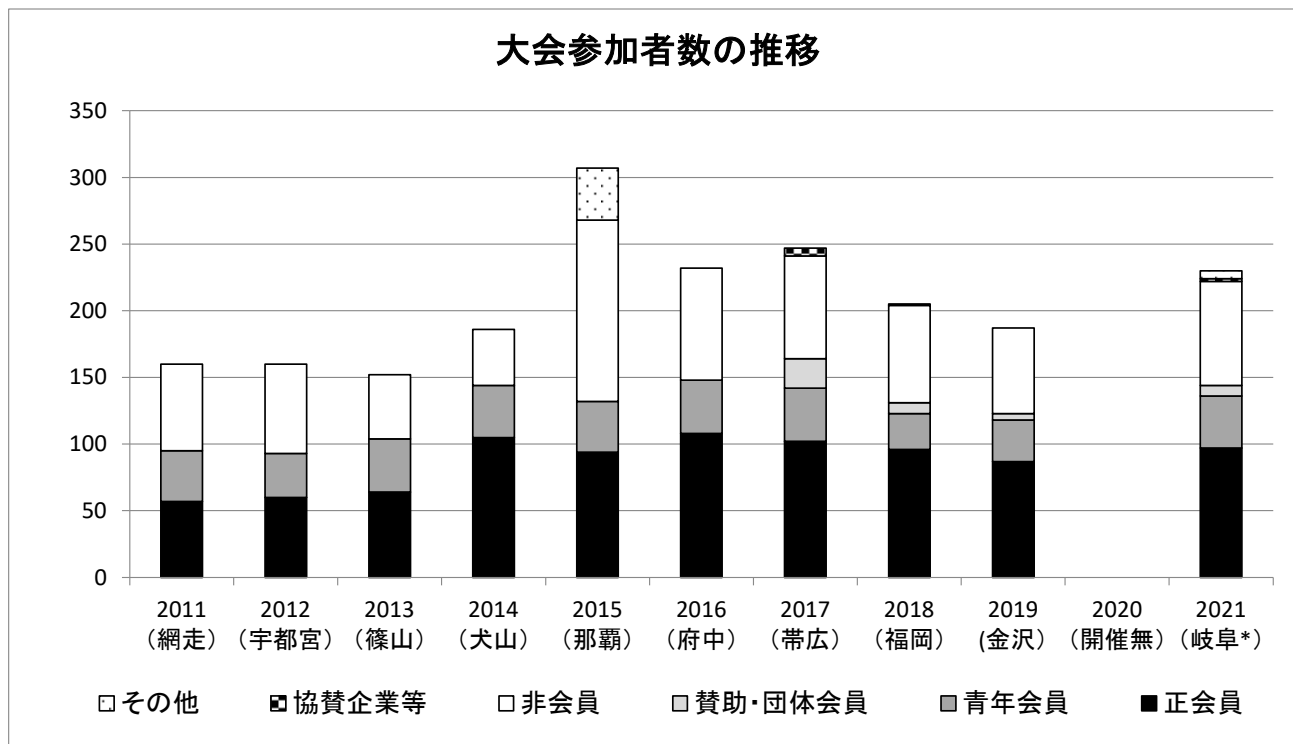
資料 1

直近 5 年度の会員数の推移

「野生生物と社会」学会 会員数の推移(過去5年度)



最近の大会参加者数の推移 (2017 年度より集計区分を細分化)



資料 1

「野生物と社会」学会 2021年度 会計報告書 (2021年4月1日～2022年3月31日)

【 1. 収支計算書 】

単位:円

科目	予算額	前期	後期	決算額	増減	備考
		4/1～9/30	10/1～3/31	(前期後期合計)	(決算-予算)	
収入部						
会費収入 合計	3,811,000	814,000	3,352,000	4,166,000	355,000	
～前年度会費	100,000	68,000	68,000	136,000	36,000	
当年度会費	680,000	662,000	196,000	858,000	178,000	
次年度会費	3,031,000	84,000	3,088,000	3,172,000	141,000	
雑収入 合計	10,020	15	16	31	△ 9,989	
電子図書著作権料	0	0	0	0	0	
バックナンバー・別刷	10,000	0	0	0	△ 10,000	
預金利子	20	15	16	31	11	
その他	0	0	0	0	0	
フォーラム誌関係収入	226,000	5,449	217,362	222,811	△ 3,189	
F誌売上	10,000	5,449	1,362	6,811	△ 3,189	
F誌広告	216,000	0	216,000	216,000	0	
大会会計繰戻金	0	0	0	0	0	
当期収入合計(A)	4,047,020	819,464	3,569,378	4,388,842	341,822	
前年度繰越額	4,580,555	4,634,553	0	4,634,553	53,998	
収入合計(B)	8,627,575	5,454,017	3,569,378	9,023,395	395,820	
支出部						
会誌発行費 合計	1,870,000	572,044	1,362,206	1,934,250	64,250	
総合誌印刷費	160,000	0	244,200	244,200	84,200	有償配布+寄贈分
J-Stage登載料	150,000	0	442,640	442,640	292,640	F誌過去分掲載費込み
F誌制作費	1,350,000	568,700	476,300	1,045,000	△ 305,000	過去分J-STAGE用編集費
総合誌編集事務費	110,000	3,344	199,066	202,410	92,410	
総合編集会議旅費	0	0	0	0	0	オンライン会議に変更
F誌編集委員会費	100,000	0	0	0	△ 100,000	R2より名称変更、会議費含む
会誌発送関係費	90,000	45,101	53,086	98,187	8,187	学会誌9-1、F誌
事務局運営費	160,000	13,320	164,475	177,795	17,795	コピー代、郵送料、会誌保管料等
委託料	1,660,000	610,500	1,463,000	2,073,500	413,500	
会員業務	440,000	220,000	220,000	440,000	0	
事務局設置費	55,000	27,500	27,500	55,000	0	
会計業務	650,000	330,000	330,000	660,000	10,000	
フォーラム誌投稿窓口	65,000	33,000	33,000	66,000	1,000	
編集業務	450,000	0	852,500	852,500	402,500	論文数超過分
青年部会費	200,000	0	0	0	△ 200,000	
行政部会費	0	0	0	0	0	
ホームページ関係費	756,800	20,675	363,990	384,665	△ 372,135	令和3年度管理費用
手数料 合計	30,000	7,559	3,603	11,162	△ 18,838	
振込手数料	5,000	4,290	2,786	7,076	2,076	
その他手数料	25,000	3,269	817	4,086	△ 20,914	会誌販売手数料
その他 合計	95,000	32,110	1,650	33,760	△ 61,240	
理事会費	25,000	22,110	0	22,110	△ 2,890	オンライン、zoom利用料計上
WG会議旅費	0	0	0	0	0	
学会賞関連経費	50,000	0	0	0	△ 50,000	
青年会員緊急支援費	0	0	0	0	0	
選挙管理費	0	0	0	0	0	
雑費	20,000	10,000	1,650	11,650	△ 8,350	男女共同参画学協会分担金
大会支援費	100,000	0	594,677	594,677	494,677	
大会会計繰入金	0	0	0	0	0	
支出合計(C)	4,961,800	1,301,309	4,006,687	5,307,996	346,196	
次期繰越収支差額(B-C)	3,665,775	4,152,708	△ 437,309	3,715,399	49,624	
単年度修正(A-C)	△ 914,780			△ 919,154	△ 4,374	

監査報告書


「野生生物と社会」学会
会長 鈴木正嗣 殿

「野生生物と社会」学会会則および会計監査実施基準に基づき、2021年度の収支決算書の監査を実施いたしましたので、下記の通り結果を報告いたします。

記

異常が無いことを認める。

監査年月日： 2022 年 7 月 3 日

監査(自署) 丸山 哲也 

監査(自署) 岸本 真弓 

以上

資料 2

2022年度「野生生物と社会」学会事業計画・予算案

1. 会員

会員区分	個人	青年	団体	賛助	合計
2021年度当初会員数	379	72	7	15	473
新入会員数	21	21	1	0	43
退会者数	△ 39	△ 11	0	△ 1	△ 51
会員区分変更者	3	△ 3	0	0	7
2021年度末会員数	364	79	8	14	465
増減	△ 15	7	1	△ 1	△ 8

※賛助会員口数は2022年3月末時点で15口

2. 会議

理事会 2022年 5月 9日 オンライン会議

2022年10月28日 酪農学園大学

総会 2022年10月29日 酪農学園大学

3. 大会

第27回大会 2022年10月28-30日 酪農学園大学

4. 役員選挙

2022年8月 第9期役員選挙（10月開票）

5. 学会誌等

学術誌 通年10巻（J-STAGEにて順次掲載、2022年1～12月搭載分が対象）

2023年 3月 10巻冊子体発行予定（有償配布分）

WF誌 2022年 8月 27巻1号発行

2023年 2月 27巻2号発行予定

6. 部会活動等

各部会提出資料を参照

7. 表彰

応募なし

8. その他

野生動物管理コアカリキュラムの検討（コアカリWG）

環境社会学会との相互連携と会員交流の促進

資料 2

「野生物と社会」学会 2022年度予算案（2022年4月1日～2023年3月31日）

【 1. 収支計算書 】

科 目	2022年度予算額	2021年度予算額	増減	2021年度決算額	2020年度決算額	2021年度決算額	当年度予算備考
			(2022-2021)	(参考)	(参考)	との比較	
会費収入 合計	4,274,400	3,811,000	463,400	4,166,000	4,004,000	108,400	
～前年度会費	100,000	100,000	0	136,000	120,000	△ 36,000	
当年度会費	800,000	680,000	120,000	858,000	688,000	△ 58,000	
次年度会費	3,374,400	3,031,000	343,400	3,172,000	3,196,000	202,400	
雑収入 合計	30	10,020	△ 9,990	31	10,935	△ 1	
バックナンバー	0	10,000	△ 10,000	0	10,910	0	
預金利息	30	20	10	31	25	△ 1	
その他	0	0	0	0	0	0	
雑誌関係収入	222,000	226,000	△ 4,000	222,811	227,004	△ 811	
雑誌売上	6,000	10,000	△ 4,000	6,811	11,004	△ 811	
雑誌広告	216,000	216,000	0	216,000	216,000	0	
大会会計繰戻金	0	0	0	0	0	0	
当期収入合計(A)	4,496,430	4,047,020	449,410	4,388,842	4,241,939	107,588	
前年度繰越額	3,715,399	4,580,555	△ 865,156	4,634,553	3,776,846	△ 919,154	
収入合計(B)	8,211,829	8,627,575	△ 415,746	9,023,395	8,018,785	△ 811,566	
会誌発行費 合計	2,056,810	1,870,000	186,810	1,934,250	1,262,737	122,560	
総合誌印刷費	245,000	160,000	85,000	244,200	154,000	800	有償配布+寄贈分
J-STAGE搭載費	200,000	150,000	50,000	442,640	30,800		
F誌制作費	1,261,810	1,350,000	△ 88,190	1,045,000	975,700	216,810	秋・冬号よりF誌編集費値上げ
総合誌編集事務費	250,000	110,000	140,000	202,410	102,237	47,590	
総合誌編集会議旅費	0	0	0	0	0	0	
F誌編集委員会費	100,000	100,000	0	0	0	100,000	
会誌発送関係費	100,000	90,000	10,000	98,187	88,230	1,813	
事務局運営費	180,000	160,000	20,000	177,795	157,369	2,205	
委託料	2,073,500	1,660,000	413,500	2,073,500	1,661,000	0	
会員業務	440,000	440,000	0	440,000	440,000	0	
事務局設置費	55,000	55,000	0	55,000	55,000	0	
会計業務	660,000	660,000	0	660,000	660,000	0	
フォーラム誌投稿窓口	66,000	66,000	0	66,000	66,000	0	
編集業務	852,500	440,000	412,500	852,500	440,000	0	投稿数超過分見込む
青年部会費	0	0	0	0	0	0	研究会等で必要な場合には請求
行政部会費	0	0	0	0	0	0	研究会等で必要な場合には請求
ホームページ関係費	599,500	756,800	△ 157,300	384,665	213,822	214,835	デザインリニューアル作業
手数料 合計	20,000	30,000	△ 10,000	11,162	21,178	8,838	
振込手数料	10,000	5,000	5,000	7,076	2,530	2,924	
その他手数料	10,000	25,000	△ 15,000	4,086	18,648	5,914	
その他 合計	145,000	95,000	50,000	33,760	33,894	111,240	
理事会費	25,000	25,000	0	22,110	23,894	2,890	ZoomPro利用料計上
コアカリWG関連費	0	0	0	0	0	0	
学会賞関連経費	50,000	50,000	0	0	0	50,000	
選挙管理費	50,000	0	50,000	0	0	50,000	
雑費	20,000	20,000	0	11,650	10,000	8,350	男女共同参画学協会分担金
大会支援費	100,000	100,000	0	594,677	0	△ 494,677	
支出合計(C)	5,274,810	4,761,800	513,010	5,307,996	3,438,230	△ 33,186	
次期繰越収支差額(B-C)	2,937,019	3,865,775	-	3,715,399	4,580,555	-	
単年度収支差額(A-G)	△ 778,380	△ 714,780	-	△ 919,154	803,709	-	

<会計に関する備考>

- ・ 昨年度の検討を受けてHPのデザインリニューアル予定のため作業費を計上(約60万円)。
- ・ 役員選挙に関わる郵送費、開票作業等の経費を計上(約5万円)。
- ・ WF誌のデザイン・印刷費の値上げに伴い制作費が前年度比20万円超増加。
- ・ 単年度会計で77.8万円の赤字見込み。WF誌制作費の見直し・検討、未納会員からの納付率増加等で赤字改善を検討している。

2022年10月8日

「野生生物と社会」学会
会長 鈴木 正嗣 殿

「野生生物と社会」学会 第九期役員選挙
選挙管理委員長（事務局長）角田裕志

「野生生物と社会」学会第九期役員選挙開票結果について

2022年10月7日に「野生生物と社会」学会第九期役員選挙の開票を行いましたので、下記の通り開票結果を報告いたします。

記

公示日 2022年8月1日
投票締切日 2022年9月30日（消印有効）
開票日 2022年10月7日（於 毎日学術フォーラム）
有権者数 340名（2022年6月末時点で当年度会費納入を確認した個人会員）
投票者数 84名
有効投票数 79名（無効投票5名）
投票率 24.7%（※有効投票数のみとした場合の投票率は23.2%）

当選者10名（得票順で同数の場合は五十音順、敬称略）（）内は得票数

八代田千鶴（27）、鈴木正嗣（26）、伊吾田宏正（23）、吉田正人（19）、桜井良（18）、
富田涼都（18）、岩井雪乃（15）、小池伸介（14）、湯本貴和（14）、浅利裕伸（13）^{注1}

補欠当選者5名（得票順同数の場合は五十音順、敬称略）（）内は得票数

須藤明子（13）、岸本真弓（12）、佐藤喜和（12）、丸山哲也（12）、池田敬（11）^{注2}

注1：当選者第10位は同得票数の者が2名であったが、会則附則役員選挙第3条に従い、
低年齢の者を当選とする。

注2：補欠当選者第5位は同得票数の者が他に4名あったが、会則附則役員選挙第3条に従い、
最も低年齢の者を当選とする。

以上

資料3

補足：事務局長推薦（得票順で同数の場合は五十音順、敬称略、）（）内は得票数（すべて他薦）

池田敬（3）、中村大輔（2）、奥田圭（1）、小池伸介（1）、小坂井千夏（1）、佐々木浩（1）、角田裕志（1）、本田裕子（1）、立脇隆文（1）、丸山哲也（1）、森部絢嗣（1）、吉田正人（1）

青年部会報告資料

三役および幹事の変更

新幹事：

古賀 達也（京都大学大学院・農学研究科森林人間関係学研究室・博士課程）

渡邊 英之（東京大学大学院・新領域創成科学研究科・修士課程）

1: R3 報告

Speed talk session ～学生・若手の研究交流会～（11月5日）

【担当幹事】 豆野, 遠藤, 神宮, 加藤, 金丸（敬称略）

【日時】 2021年11月5日（金）19:00～21:00

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【招待者】

奥田圭先生（広島修道大学、野生動物生態学）

【主な企画内容】

本企画は、研究に意欲的な大学生大学院生を対象として、横のつながり（大学生・大学院生同士）と縦のつながり（大学生・大学院生と若手会員）を形成し、研究モチベーションの向上や研究内容のブラッシュアップに貢献することを目的に若手研究者の交流会を開催した。（詳細についてはワイルドライフフォーラム誌にて報告予定）

【研究交流会の構成】

- ① 参加者の研究発表：1人2分程度で自身の研究について発表
- ② グループワーク：3グループに分かれ、研究や就職に関する談話

【参加者】

企画者である若手会員6名、参加者である大学生・大学院生11名であった。また、大学生・大学院生については、学部2年生から大学院博士課程2年生まで幅広い学年からの参加であった。

【支出】

資料 4

項目	金額	備考
謝金	¥8000	規定に基づく奥田さんへの謝金 支払
合計	¥8000	

2: R4 計画

青年部会幹事会

【日時】 2022年6月4日（土）13:00～15:00

【開催方法】 ハイブリッド型（オンサイト+Zoom）を予定（中部/関東で検討中）

- 新幹事を含めた顔合わせ
- 2022年度 予算・企画の確認・打ち合わせ
- 大会企画の検討や選挙に関する打ち合わせ

【予算案】

項目	金額	備考
旅費	¥70,000	
合計	¥70,000	

初めて学ぶ鳥獣保護管理法

【担当幹事】 金丸, 神宮, 古賀, 加藤（敬称略）

【日時】 2022年6月中旬～7月上旬の土日を予定（150分間）

【開催方法】 オンライン（Zoom）

【公演者】

高橋満彦さま（富山大）、遠矢駿一郎さま（環境省）

【定員】

先着100名（ZOOMの定員上限まで）

【主な企画内容】

本企画では、最新の基本的な鳥獣保護管理法の概略と、各種許認可事務の仕組みについて解説することで、これから野生鳥獣の捕獲等を用いた研究計画を考える学生

資料 4

等に向けて、鳥獣保護管理法の趣旨と、法令遵守した手続き方法等について学ぶ機会を提供することを目的とする。

【予算案】

項目	金額	備考
講師謝金	¥ 8,000	1名 8,000円
印刷・送付費	¥ 1,000	依頼文書の印刷、郵送費
合計	¥ 9,000	

大会シンポジウム&エクスカージョン（企画段階）

2022年度の札幌大会に合わせて青年部会でシンポジウムを企画予定。

昨年に引き続きエクスカージョンや現場企画などをできないか検討中

その他オンライン交流会・シンポジウム（1-2回程度を予定）

例）オンライン研究会 「緑の場と人々～自然と社会の関わりとは～」

国立公園のような自然公園から、都市の公園や緑地にいたるまでの様々な緑の場において、自然と人間がどのような関係を築いているか、研究交流を行う。

演者は、若手の研究者、学生を中心に募る。各自の研究について発表し合い、それらを議論・交流する場を設ける。

資料 4

決算報告資料

収支報告書

「野生生物と社会」学会青年部会令和3年度決算

会計報告責任者: 加藤恵里(滋賀県立大学)

作成年月日: 令和4年3月31日

単位: 円

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入の部	(基本収入)						
	令和2年度繰越金	179,129			179,129	0	
	令和3年度支援金	200,000			0	△ 200,000	
	(事業収入)						
	現場企画	40,000			0	△ 40,000	
	シンポジウム企画	0			0	0	
(その他)							
雑収入	0				0	0	
収入合計		419,129			179,129	△ 240,000	

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
支出の部	(事業支出)						
	現場企画	200,000			0	△ 200,000	
	シンポジウム企画	60,000			0	△ 60,000	
	大会企画	100,000			8,000	△ 92,000	謝金
	(事務・その他)						
	交通費	30,000			0	△ 30,000	理事会旅費
	文具	2,000			0	△ 2,000	
	雑費	2,000			0	△ 2,000	
	通信費	25,000			22,110	△ 2,890	Zoom
	支出合計		419,000		30,110	△ 388,890	

	科目	当初予算額			決算額	増減(決算-予算)	備考
収入合計		419,129			179,129	△ 240,000	
支出合計		419,000			30,110	△ 388,890	
収支差額		129			149,019	148,890	

資料 4

予算報告資料

収支報告書
「野生生物と社会」学会青年部会令和4年度予算
会計報告責任者: 加藤恵里(滋賀県立大学)
作成年月日: 令和4年3月31日

単位: 円

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
収入の部	(基本収入)						
	令和3年度繰越金	149,019				△ 149,019	
	令和4年度支援金	200,000				△ 200,000	
	(事業収入)						
	現場企画	50,000				△ 50,000	
	シンポジウム企画	0				0	
(その他)							
雑収入	0					0	
	収入合計	399,019			0	△ 399,019	

	科目	予算額	単価	数量	決算額	増減(決算-予算)	備考
支出の部	(事業支出)						
	現場企画	200,000				△ 200,000	
	シンポジウム企画	50,000				△ 50,000	
	大会企画	50,000				△ 50,000	
	(事務・その他)						
	交通費	70,000				△ 70,000	幹事会旅費
	文具	2,000				△ 2,000	
	雑費	2,000				△ 2,000	
	通信費	25,000				△ 25,000	Zoom
		支出合計	399,000			0	△ 399,000

	科目	当初予算額			決算額	増減(決算-予算)	備考
	収入合計	399,019			0	△ 399,019	
	支出合計	399,000			0	△ 399,000	
	収支差額	19			0	△ 19	

2021 年度事業実施報告
(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

I 事業計画

1. 部会総会の開催

第 26 回「野生生物と社会」学会大会にあわせて 11 月 3 日(水)11 時 30 分より開催予定。

2. 第 26 回「野生生物と社会」学会・テーマセッションの開催

第 26 回「野生生物と社会」学会大会において行政研究部会が主催するテーマセッションを開催。

「鳥獣行政に必要な人材の配置と育成～鳥獣担当職員配置の光と影～」

日時: 2021 年 11 月 4 日(木)14:00～16:00

開催方法: Zoom を使用した WEB 形式

参加者数:114 名(zoom 入室者人数) ※申込者数 142 名

3. 研究会の開催

自主企画研究会、共催による研究会は実施していない。

4. 野生生物行政に関する情報源情報の整備

平成 23 年度および 24 年度に実施した「鳥獣行政」「野生生物保護行政」のアーカイブを引き続きホームページで公開。

5. 野生生物行政に関する普及啓発手法の研究

6. 野生生物行政に関する情報の発信または提言

7. 重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」の設置

提案を取りまとめるための、アンケート調査の方法・フォーマット作成。研究会の際に実施済み。次年度以降、主に野生動物管理の担い手の配置に関する提言を取りまとめる予定。

8. その他

2021 年野生生物 10 大ニュースの選定・発表を年末に実施した。

II その他

1. 部会員名簿の管理

2022 年 3 月末日時点の会員数

部会員 116 名(2020 年度末より 2 名増)

準部会員 98 名(2020 年度末より 4 名増)

2021 年度収支報告

(会計年度:2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

1. 一般会計

(歳入の部)

(単位 円)

項 目	予算	収入	支出	摘 要
1. 学会からの資金	0	0	—	「野生生物と社会」学会から
2. 2020 年度からの繰り越し金	112,903	112,903	—	
3. 雑収入	—	—	—	
合 計	112,903	112,903	—	

(歳出の部)

1. 事業費	(1)研究会の開催	15,000	—	26,660	①2020 年度 3/14 セミナー講師謝金 (1 名×10,000 円)※ ②第 26 回大会 TS 講師大会参加費 (1 名×6,000 円) ③第 26 回大会 TS 講師謝金 (1 名×10,000 円) ②・③の講師の大会口座への送金手数料 660 円
	(2)野生生物行政に関する情報源情報の整備	5,000	—	0	資料複写代、交通費等
	(3)野生生物行政に関する普及啓発手法の研究	3,000	—	0	交通費等
	重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」	28,000	—	0	資料複写、アンケート送付経費等
2. 管理費	事務作業手当	20,000	—	20,000	1 名。部会員・ML 管理、会計管理等
	消耗品費	1,000	—	0	文具、用紙等
	会議費	3,000	—	0	会場費、茶菓等
	幹事会出席旅費	30,000	—	0	
	印刷経費	5,000	—	0	チラシ、資料作成等
	通信費	1,000	—	0	資料郵送代等
	雑費	1,000	—	605	送金手数料等
3. 予備費	903	—	0		
合 計	112,903	—	47,265		

※2020 年度中に手続きの都合により支払が完了しなかったため、部会長及び幹事判断により 2021 年度予算分より支払

歳入－歳出＝ 65,638 円

2022 年 5 月 5 日

「野生生物と社会」学会行政研究部会

部会長

横山真弓

総務担当幹事

奥山正樹

森元萌弥

2022 年度事業計画

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

I 事業計画

1. 部会総会の開催

第 27 回「野生生物と社会」学会大会にあわせて部会総会を行う。

2. 第 27 回「野生生物と社会」学会・テーマセッションの開催

第 27 回「野生生物と社会」学会において行政研究部会が主催するテーマセッションを開催する。「野生動物管理専門員の資質や人材配置について」大会でテーマセッションを検討中。

3. 研究会の開催

テーマセッションの検討を含めて検討する。

4. 野生生物行政に関する情報源情報の整備

平成 23 年度および 24 年度に実施した「鳥獣行政」「野生生物保護行政」のアーカイブ保存し、ホームページで公開している資料の目次について、引き続きホームページで公開する。また、今後、閲覧困難な刊行物等について新たにアーカイブ保存し、公開することを検討する。

5. 野生生物行政に関する普及啓発手法の研究

6. 野生生物行政に関する情報の発信または提言

7. 重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」

行政部会では、平成 30 年度に各省庁に対する提案や社会に対する問題提起、法改正に向けた提言などを取りまとめていくためのプロジェクトを立ち上げた。行政関係者と研究者が時世に応じた議論を行う場として大会を機能させるため、野生動物管理の専門的人材について、行政機関へのアンケート調査をまとめ、大会の議論を通じて、提案を取りまとめていく。現在アンケート内容を議論している段階
コアカリキュラムプロジェクトなどと連携を検討する。

その他、今後は捕獲、資源化などニーズを議論する。

8. その他

2022 年野生生物 10 大ニュースの選定・発表を年末に行う。

III その他

1. 部会員名簿の管理

2022年度収支予算

(会計年度:2022年4月1日~2023年3月31日)

1. 一般会計

(歳入の部)

(単位 円)

項目	予算	摘要
1. 学会からの資金	0	「野生生物と社会」学会から
2. 2021年度からの繰り越し金	65,638	
3. 雑収入	—	
合計	65,638	

(歳出の部)

1. 事業費	(1)研究会の開催	25,000	講師謝金等
	(2)野生生物行政に関する情報源情報の整備	5,000	資料複写代、交通費等
	(3)野生生物行政に関する普及啓発手法の研究	3,000	交通費等
	重点プロジェクト「行政ニーズ課題プロジェクト」	10,000	資料複写、アンケート送付経費等
2. 管理費	事務作業手当	20,000	1名。部会員・ML管理、会計管理等
	消耗品費	1,000	文具、用紙等
	会議費	3,000	会場費、茶菓等
	幹事会出席旅費	0	
	印刷経費	5,000	チラシ、資料作成等
	通信費	1,000	資料郵送代等
	雑費	1,000	送金手数料等
3. 予備費	1,638		
合計	65,638		

2022年5月●日

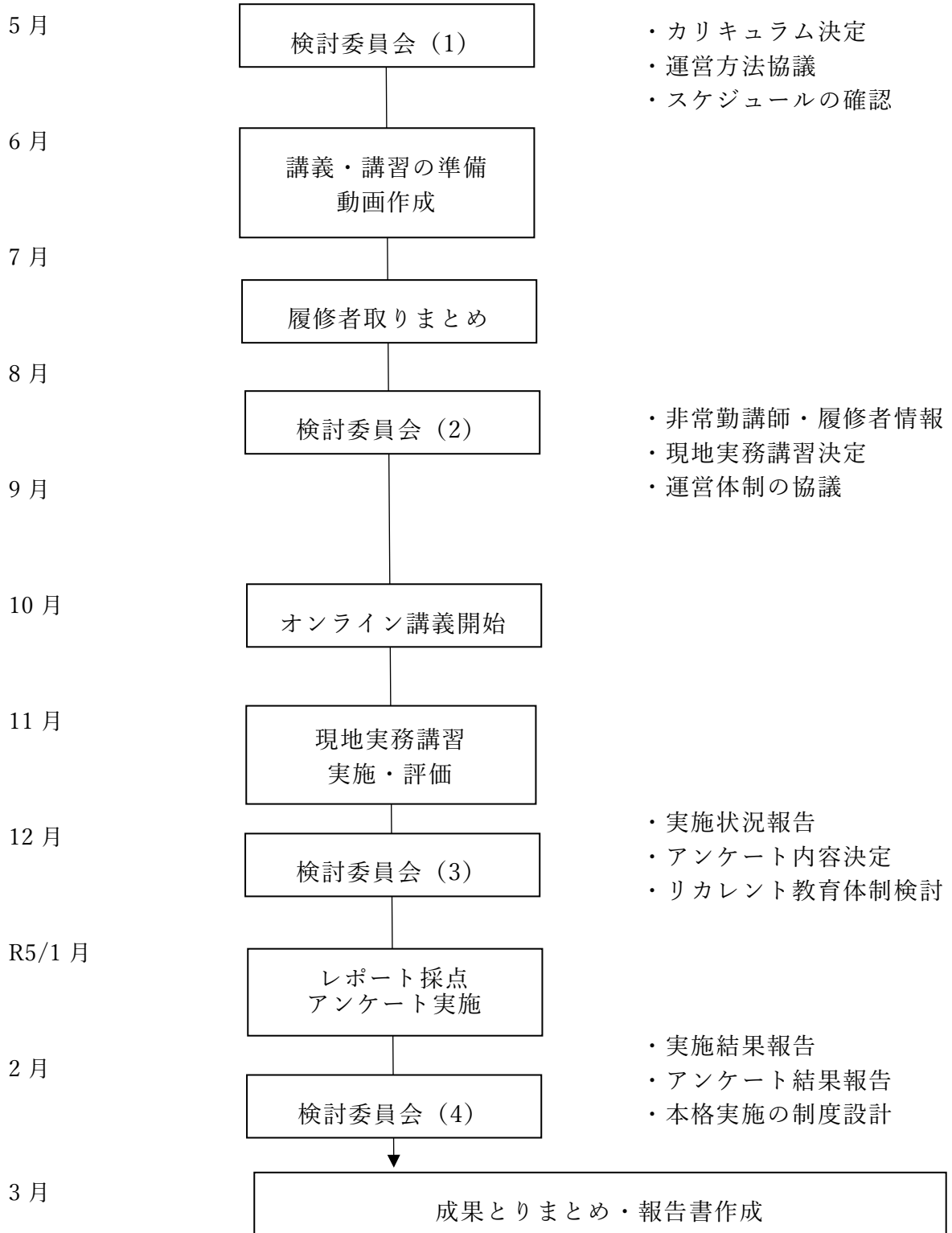
「野生生物と社会」学会行政研究部会

部会長 横山真弓

事業実施スケジュール（案）

<年月>
R4/4月

<農水省受託事業>



令和4年度

野生動物管理コアカリキュラム 受講生募集！



野生動物管理のための専門人材育成プログラム

深刻化した野生鳥獣による農林水産業被害や生態系被害など地域課題を解決するため、科学的な野生動物管理を担うことができる専門人材の育成を目的に、将来的な資格制度につながる「教育プログラム」として、試行的に開講いたします。

受講対象者

宇都宮大学・岐阜大学・東京農工大学・兵庫県立大学・山形大学・酪農学園大学に在籍する学部生および大学院生

開催日程

2022年10月～12月 オンデマンド講義
2022年11月19～20日 現地実務講習(兵庫県丹波市で開催予定)

募集定員

講義：180名程度、現地実務講習：40名

受講料

無料
(実務講習は実費負担)

講義・演習 内容

オンデマンド講義 (5科目 / 30学修項目)

- ・野生動物保全管理学
- ・野生動物被害管理学
- ・自然保護と自然資源管理
- ・鳥獣・環境関連法規・政策
- ・住民参加型計画立案手法



現地実務講習 (1科目 / 3学修項目)

- ・住民参加型計画立案演習
- ※1泊2日で開催。交通費・宿泊費は自己負担。定員制の為、応募者多数の場合は抽選。

お問い合わせ

〇〇大学担当教員まで、E-MailまたはFAXでお問い合わせください。

E-Mail :

FAX :

申込方法 申込期日

<http://web.tuat.ac.jp/~cwmer/education.html#abc>より参加申込書をダウンロード、必要事項を記入の上、E-Mailにて **2022年9月15日まで**にお申し込み下さい。

E-Mail :

※なお、本事業は農林水産省「鳥獣被害防止総合対策推進交付金」により実施します。新型コロナウイルス対策のため、実務講習内容や日程・募集人数等を変更する可能性があります。最新情報は東京農工大学野生動物管理教育研究センターのHPをご確認ください
(<http://web.tuat.ac.jp/~cwmer/index.html>)。



令和4年度野生動物管理教育プログラム

科目名 (項目数)	学修項目	講 師	主な学修内容
野生動物保全 管理学 (7)	(1) 野生動物管理とは何か	梶 (農工大)	哺乳類相の特徴、野生動物管理の在り方
	(2) ヨーロッパと北米の野生動物管理	梶 (農工大)	野生動物管理の歴史、ヨーロッパと北米の野生動物管理システム
	(3) 個体群動態の基礎	宇野 (農工大)	個体群生態学の用語、理論
	(4) 野生動物の過増加	宇野 (農工大)	過増加がもたらす様々な影響
	(5) 大型獣の個体群管理	鈴木 (岐阜大)	大型獣の生態的特性と管理手法
	(6) モニタリング	高木 (兵庫県立大)	個体群モニタリングの基礎
	(7) 生息地	栗山 (兵庫県立大)	生息地の概念、生息地利用
野生動物被害 管理学 (7)	(1) 野生動物管理のなかの被害管理の位置づけとは	小寺 (宇都宮大)	人口縮小社会の野生動物被害、被害管理に関わる社会教育
	(2) 農業被害の背景・要因・実態	小寺 (宇都宮大)	農業被害の増加の背景と要因、農村の諸問題
	(3) 農業被害の軽減手法	小寺 (宇都宮大)	農業被害軽減手法と技術
	(4) 森林生態系被害、林業被害の背景・要因・実態	小池 (農工大)	森林生態系被害、林業被害の背景と要因
	(5) 森林生態系被害、林業被害の軽減手法	小池 (農工大)	林業被害軽減手法と技術
	(6) 水産業被害の背景・要因・実態	須藤 (イグレットオフィス)	鳥類や鰭脚類による水産業被害の背景と要因、漁業の諸問題
	(7) 水産業被害の軽減の手法	須藤 (イグレットオフィス)	水産業被害軽減手法と技術
自然保護と 自然資源管理 (6)	(1) 自然保護とは何か	土屋 (東京農工大)	保存と保全、日本と欧米の自然保護思想の違い
	(2) 自然資源管理とは何か	土屋 (東京農工大)	自然資源、エコシステムマネージメント
	(3) 自然資源管理のガバナンス	土屋 (東京農工大)	ガバナンス、補完原則、市民参加
	(4) 野生動物の資源的価値	鈴木 (岐阜大)	野生動物の資源的価値、利用形態
	(5) 野生動物の消費的活用	伊吾田 (酪農大)	狩猟資源、食肉資源、副産物等
	(6) 野生動物の非消費的活用	中川 (知床自然大学院大学)	観光資源、教育資源等
鳥獣・環境関 連法規・政策 (7)	(1) 鳥獣保護管理法	鳥居 (自然公園財団)	鳥獣保護管理法概要、特定計画制度
	(2) 自然環境保全関連法令の概要	鳥居 (自然公園財団)	生物多様性基本法、自然環境保全関連個別法
	(3) 森林関連法規、森林・林業基本法	増田 (林野庁)	森林・林業基本法、森林法、森林計画・山地保全
	(4) 特定計画に基づく科学的管理手法	横山 (兵庫県立大)	科学的管理、データ収集・分析の理論と手法
	(5) 野生動物問題に関する法体系	黒崎 (東京環境工科専門学校)	鳥獣被害防止特措法と鳥獣保護管理法
	(6) 行政の構造、公的機関の役割	黒崎 (東京環境工科専門学校)	都道府県と市町村、公務員の理想像やモデル事例
	(7) 農林業被害対策に関する計画立案	黒崎 (東京環境工科専門学校)	被害防止計画の立案
住民参加型 計画立案手法 (3)	(1) 地域主体の獣害対策の理論	山端 (兵庫県立大)	被害管理、合意形成、アクションリサーチ
	(2) 地域主体の獣害対策推進手法	山端 (兵庫県立大)	アンケート・インタビュー、フィールド調査、可視化 (GIS)、ワークショップ技法
	(3) 農業におけるコミュニティの特徴と土地利用計画、「人・農地プラン」	山端 (兵庫県立大)	農業集落、コミュニティ組織、農村社会の課題
住民参加型 計画立案演習 (3)	(1) 被害発生集落での実踏調査方法	山端 (兵庫県立大)	演習、インタビュー、フィールド調査、可視化 (GIS) 演習
	(2) ワークショップと合意形成の技法	山端 (兵庫県立大)	演習、ファシリテーション技術
	(3) 地域主体の獣害対策推進手法	山端 (兵庫県立大)	演習、広報

オンデマンド講義 (5科目/30学修項目) 1学修項目 約90分

現地実務講習* (1科目/ 3学修項目) 1日目現地調査、2日目グループワークを予定。

※定員制の為、応募者多数の場合は抽選を行います。

- 上記プログラムは、令和5年度以降のコアカリキュラム本格的実施のための、試行的プログラムとなります。
- 将来的な制度構築に資するため、受講後にアンケート調査を実施しますので、ご協力をお願いいたします。

日	時	場所	項目	担当	留意点等	準備物	各自の準備物
11月19日	12:23	丹波市柏原駅	集合	農工大			
	12:56		移動	バス会社	バス		
	13:06						
	13:15	出発					
	13:45	東芦田公民館	ガイダンス	兵庫県大、東芦田自治会			
	14:00	公民館会議室	グループインタビューの解説	兵庫県大、東芦田自治会			
	14:15	公民館会議室	グループインタビュー	東芦田自治会	5人/班×8班	記入用地図、レコーダー	
	15:15	集落内8ブロック	現地踏査	東芦田自治会	各班につき集落から1名案内 防護柵周辺、被害が多かった場所、箱根などを中心に調査	自動撮影カメラ→事前に兵庫県大で設置 箱根に設置しているカメラ画像を回収 カメラ 延長コード 兵庫県大	カメラは各自持参(スマホ) ポケットWi-Fi→兵庫県大 救急セット→兵庫県大 装備を各自で周知 マダニスプレー→兵庫県大
	17:15	東芦田公民館	集合				
		公民館会議室	調査結果のまとめ	兵庫県大	インタビュー時の地図に各班で調査結果を記入	ポストイット、マッキー等の文具、模造紙??(A4で撮影→投影?)	
18:15		移動	農工大、兵庫県大	バス			
18:30	少年自然の家	食事、入浴、自由			自然の家の会議室 プレゼン準備など		
11月20日	8:30	少年自然の家	移動				
	8:45	公民館会議室	東芦田集落の被害対策計画立案	兵庫県大	プレゼンを各自PCで作成		PCは各自持参
	9:45	公民館会議室	東芦田集落の被害対策計画報告	兵庫県大	10分発表 5分集落も含めて講評		
	11:45	公民館会議室	全体の講評	東芦田農会長、区長、教員			
	12:00		移動			バス	
	12:30	柏原駅	解散				

野生生物の保護管理に関する専門家の育成と認証制度を考える Capacity Building and Certificate for Wildlife Management Specialists

吉田 正人

YOSHIDA, Masahito

日本学術会議の「人口縮小社会における野生動物管理のあり方に関する検討会」の提言を受けて、野生生物の科学的管理を担う専門人材の育成および地方自治体等への配置を進めるため、「野生生物と社会」学会野生動物管理教育認証制度ワーキンググループが検討してきた議論を紹介するとともに、本学会が認証制度に果たす役割を議論する。

- 1、野生動物管理教育のコアカリキュラム～その定義と策定の経緯について～ 鈴木正嗣（岐阜大）
- 2、野生動物管理教育と大学カリキュラム 宇野裕之（農工大）
- 3、行政における野生動物管理の専門人材の配置について 丸山哲也（行政研究部会幹事）
- 4、米国における野生生物管理者の認証制度について 大西勝博（WMO）
- 5、北海道におけるシカ捕獲認証制度と大学との連携～酪農学園大学の事例～ 伊吾田宏正（酪農学園大）
- 6、知床における野生動物管理者のリカレント教育～知床ネイチャーキャンパス～ 中川元（知床自然大学院大学設立財団）
- 7、ディスカッション（野生動物管理者の育成と認証に大学・行政学会が果たす役割）

野生動物管理教育のコアカリキュラム ～その定義と策定の経緯について～

Core curriculum for wildlife management

鈴木 正嗣

Masatsugu Suzuki

コアカリキュラムとは、大学改革支援・学位授与機構により「特に特定の種類の人材養成を目的とする教育課程の編成の際に必須に含むべき授業科目群」と定義づけられ、「特に、医学、歯学、看護学、獣医学、法科大学院、教職課程等のためには文部科学省が主導してモデル・コア・カリキュラムを設定している」と補足されている。獣医学教育でも、「全大学に課される共通の到達目標というべきもの」と位置づけられ、「履修年限の中で獣医学として教えるべき3分の2程度の内容を示す」とされる。野生動物管理教育コアカリキュラムの検討は、日本学術会議の「人口縮小社会における野生動物管理のあり方(2019)」において、「地域の社会、歴史・文化、生態系、野生動物についての十分な理解と知識はもとより、実地での経験が欠かせない。大学教育や大学院教育において、それらを統合的に学び、実地での経験も積めるような教育課程が編成され、提供されることが必要である。」と記されたことに始まる。この提言を受け、農林水産省と環境省は「野生動物管理教育プログラム検討会」を立ち上げ、委員ならびにオブザーバーの協議により、2020年からの2年をかけ、本コアカリキュラムを策定した。

野生動物管理教育と大学カリキュラム

Education of Wildlife Management and University Curriculum

宇野 裕之

Hiroyuki Uno

東京農工大学は、2022年4月1日付で農学部附属野生動物管理教育研究センター(<http://web.tuat.ac.jp/~cwmer/index.html>)を設立した。本センターは、野生動物管理教育研究及び国際共同研究の拠点として、科学的な野生動物管理システムの構築を目指しており、特に管理の担い手の育成を通して、野生動物をめぐる社会課題の解決をはかり、農山村地域の振興に寄与することを大きなミッションの一つとしている。

今年度は、酪農大、山形大、宇都宮大、岐阜大及び兵庫県立大と連携し、農水省事業を活用した「野生動物管理コアカリキュラムの試行」に取り組んでいる。野生動物保全管理学／被害管理学／自然保護と自然資源管理／鳥獣・環境関連法規・政策／住民参加型計画立案手法の5科目(30学修項目)についてオンデマンド講義を、住民参加型計画立案演習の1科目(3学修項目)について現地における実習・演習を開催予定である。受講者アンケート等を通じて課題を抽出し、次年度からの本格実施に向けた制度設計を行う。単位互換制度やカリキュラムの検討状況、今後の課題について話題提供を行いたい。

行政における野生動物管理の専門人材の配置について Placement of wildlife management experts in the administration.

丸山 哲也
Tetsuya Maruyama

野生動物の科学的管理を行う上で、行政機関の担う役割は多い。都道府県では、特定鳥獣保護管理計画等各種計画の作成、捕獲や被害防止対策の予算確保と執行、モニタリングの実施、市町村の被害防止計画の確認、集落ぐるみの対策の推進と指導、対策指導者の育成など多岐にわたり、いずれの対策においても専門的知識が不可欠である。一方で、これまで多くの行政機関はゼネラリスト型の人材育成を行っているが、野生動物管理の専門的知識を有する人材が育ちにくい状況にある。担当者は、現状を把握した上で業務の必要性を理解し、動物の生態や対策技術の習得を重ね、ようやく主体的に対策に取り組む技術を身につけたところで異動となるのが実態である。

野生動物管理教育認証制度が動き出した場合、人材の知識レベルを裏付けるものとして期待されるが、実際に専門人材が継続して配置されるには、社会的なニーズの高まりが鍵となるであろう。

米国における野生生物管理者の認証制度について TWS Associate and Certified Wildlife Biologist Certifications

大西 勝博
Masahiro Ohnishi

野生動物管理は、国毎、行政界毎に管理・対策のゴールが異なることで、対策実施に携わる組織・役割が多岐にわたる。他国の組織・役割分担を理解することは、自国での野生動物に対する対策を立案する上で重要な情報源になる。本発表では、北米（米国・カナダ含む）で主要な人材認証である、ワイルドライフソサイエティ（以下、TWS という。）の認証制度を紹介する。

米国では、大学における授業のカリキュラムを通じて一定の単位数を確保することで、TWS が提供する2種類の認証制度を保持することができる。1つ目は、TWS Associate Wildlife Biologist certification であり、学部レベルの単位数があれば取得可能な資格である。2つ目は TWS Certified Wildlife Biologist であり、学部レベルの単位取得後、5年間フルタイムで野生動物管理に関わる職歴（対策・管理・アセスメント等）がある経験者のみを対象に資格の申請が可能である。連邦局や州での野生動物管理学者などの職種は、認証保持者のみを対象に職の募集がされているケースもある。米国が目指す人材のボトムアップは、資格保持者が地方などで科学的に管理対策することで、野生動物の保全、若しくは被害対策の実施などで貢献している。

北海道におけるシカ捕獲認証制度と大学との連携～酪農学園大学の事例～

The Collaboration of the Deer Culling Certificate and Rakuno Gakuen University in Hokkaido

伊吾田 宏正

Hiromasa Igota

一般社団法人エゾシカ協会は、英国の事例をモデルにして、2015年にシカ捕獲認証(以下DCC)制度を創設した。その目的は、シカの捕獲や管理に関わる様々な立場の人材を対象として、基本的なスキルを訓練して、認証することにある。その教育理念は、安全で人道的な捕獲と食肉利用のための衛生管理を推進し、効果的なシカの資源管理を実現できることである。これまで、約200名の参加があり、そのうち1割程度を酪農学園大学の学生が占めているが、これは本学野生動物学コースがDCCとカリキュラム連携をしているためである。本コースには1学年90名程度の学生が所属し、哺乳類、鳥類、両生爬虫類等の保全に関する総合的な教育を展開している。また、そのカリキュラムは、野生動物管理教育モデル・コア・カリキュラム(以下コアカリ)の多くの科目をカバーしており、本大学院野生動物専攻と合わせると、コアカリの一貫教育を実現できる可能性がある。本コースは、卒業生が自治体や民間団体等の職員として、野生動物の地域主体管理を担っていただけることを目指している。

知床における野生動物管理者のリカレント教育～知床ネイチャーキャンパス～

Recurrent Education for Wildlife Manager in Shiretoko

中川 元

Hajime Nakagawa

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団では、野生動物保護管理専門職の人材養成機関の設立を目指しながら、2016年より具体的な現場教育プログラムの実践として「知床ネイチャーキャンパス」を開催している。現地実習や演習のほか、講義やトークセッション(オンライン含む)など、2022年夏までにすでに7回開催した。全国からの受講生は大学生・大学院生のほか、野生動物管理や環境保全に関わる社会人も多数参加している。野生動物保護管理の人材養成においては現職者のリカレント教育の重要性が指摘されている。このため2022年の知床ネイチャーキャンパスでは受講対象者を野生動物保護管理に携わる現職者を中心に社会人に限定したリカレントプログラムとして実施した。そのプログラム内容や参加者アンケート調査結果を紹介するとともに、リカレント教育に求められる内容や教育フィールドについて考察する。

審議依頼

朝倉書店から「野生動物の保全と管理の事典」（仮称）の出版についての打診があり、梶・横山・鈴木の3名が相談して企画案を提出したところ、裁可されました。つきましては、「野生生物と社会」学会(編)／日本哺乳類学会・日本鳥学会（編集協力）」として、編集委員会を組織してよろしいかをご審議お願いします。

「野生動物の保全と管理の事典」（仮称）出版企画書（案）

220501

文責 梶 光一

経緯

2021年10月25日 朝倉書店から、鳥獣害に関する新しい書籍企画についての打診

2022年1月11日 朝倉書店と横山真弓、鈴木正嗣、梶がZoomで出版企画の打ち合わせ

2022年4月25日「野生動物の保全と管理の事典（仮）」出版企画の裁可

◆B5判，600ページ，予価18000円という建て付け

◆本年中に執筆依頼，23年12月までに完成原稿そろそろ（23年8月原稿締切），25年4月刊行

中項目形式ではなく、『野生動物保護の事典』と同様大項目形式（総論→各論と順を追った教科書的な構成）

本書の目的

今日、人口縮小が急速に進行するなかでニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、クマ類などの在来の野生動物の分布拡大と生息数増加が生じ、農林業被害の増加のみならず、都市域にも出没して野生動物とヒトとの軋轢が加速化している。また、野生動物とヒトとの境界があいまいになったために、野生動物による感染症が新たなリスクとして認識されるようになった。さらには、アライグマなどの外来野生動物の野生化と分布拡大も懸念されている。一方、かつて絶滅危惧種であったコウノトリ、トキ、タンチョウなどの大型鳥類は野生復帰事業が成功して、新たな生息地に分散・定着が進む一方で農業被害などのリスクが生じている。また、風力発電とバードストライク対策も新たな問題となっている。本書は、人口縮小社会における野生鳥獣類のリスク管理と持続的な資源利用の在り方を行政施策や産業と関連づけながら示すことにより、科学に基づく野生動物管理の原理原則を明らかにするものである。

対象種 鳥獣保護管理法の対象となる野生鳥獣類、海獣、野生復帰が進むコウノトリ、トキ、タンチョウ、外来種

内容 コアカリ用教科書 『実践 野生動物管理学』（培風館）の項目を参照し、よりよく知るための事典とする。用語の定義、法律と政策（環境省、農林水産省）、獣種別の被害と

対策、森林管理、個体群動態と管理、野生動物管理システム、農林水産業と鳥獣害のかかわりを明確にする。風力発電とバードストライク対策

本書の特長・『野生動物保護の事典』との違い

※行政では野生動物管理が必要になっているものの、知識がないなかで対応しなければいけない状況。実務者に必要な事典としたい。教育現場でも、網羅的に教えられる人が少なく体制が整っていない。→コアカリ教科書を読むためにバックグラウンドとなる事典(用語の定義も含め)。

※『野生動物保護の事典』は網羅的だったのでそれはやめ、対象種は管理対象に絞る→より現状に即した使える事典を目指す。

編集委員会

「野生生物と社会」学会、日本哺乳類学会、日本鳥学会 (学会のかかわりかたは、要検討)
(以下、朝倉書店担当者のコメント)

※個人編の事典もあるが、学会編のメリットは「(特に対・公共図書館)内容の確かさが打ち出せる」「学会員に特価で販売できる」ことが挙げられます。ただし、複数学会に同じパワーバランスで関わっていただくと、各学会内・学会同士の調整などが煩雑になることもあります。社内でも相談してみます。

※下記のように「〇〇学会(編)/△△学会(編集協力)」とした事典もございました。

https://www.asakura.co.jp/detail.php?book_code=16276

提案

「野生生物と社会」学会(編)/日本哺乳類学会・日本鳥学会(編集協力)」

編集委員(候補) 太字は世話人

鈴木正嗣(岐阜大学)、**横山真弓(兵庫県立大学)**、**梶光一(東京農工大学名誉教授)**、山端直人(兵庫県立大学)、松田裕之(横浜国立大学)、**小池伸介(東京農工大学教授)**、大沼学(国立環境研)、佐川志郎(兵庫県立大学自然・環境科学研究所)、綿貫豊(北海道大学教授、日本鳥学会会長)、亘悠哉(森林総合研究所)、飯島勇人(森林総合研究所)

粗目次(案)構成

総論を「(専門もしくは専門に近い)編集委員」に割り振り、当該の編集委員に「総論として記す事項」と「各論とすべき事項」を整理して頂く

総論

1. 野生動物と野生動物管理の定義

- ・野生動物の定義
- ・野生動物管理とは？

2. 日本における野生動物管理のあゆみ

- ・江戸時代以前
- ・明治時代以降
- ・現代

3. 野生動物管理の法体系

- ・明治・大正の狩猟法
- ・昭和の鳥獣保護法
- ・平成の鳥獣保護管理法

4. 野生動物管理専門員の育成と配置

- ・鳥獣法改正と付帯決議
- ・野生動物管理専門員等の配置状況
(県および市町村の実例)
- ・コアカリキュラムの検討と運用

5. 個体群動態の基礎と実際

- ・指数的成長
- ・ロジスチック成長
- ・密度依存性と環境収容力
- ・大型獣の個体群動態

6. 感染症と疾病

7. 捕獲区分と捕獲方法

- ・狩猟、許可捕獲（有害鳥獣捕獲、許可捕獲）、指定管理鳥獣捕獲等事業
- ・銃猟、わな猟、巻き狩り、忍び猟
- ・シャープシューティング

8. 気象と交通事故・列車事故

- ・豪雪によるニホンジカの大量死
- ・交通事故・列車事故の実態

9. 栄養生態学 ・食性 ・栄養 ・成長 ・繁殖

10. 動物行動学

- ・日周活動の周期性の4パターン
- ・季節移動パターン
- ・生息地選択

11. 生息地（森林、湿原、海洋、河川、農地）

1 2. 気候変動と野生動物

- ・温暖化がもたらす大型獣分布拡大の影響

1 3. 外来野生動物の野生化と分布拡大

1 4. 個体群管理計画

- ・生息数推定⇒捕獲目標数の設定⇒捕獲の実施⇒評価のフィードバック

1 5. 獣害対策の原理：補完性原理（自助・共助・公助）

1 6. 被害管理

- ・森林
- ・農地
- ・自然植生

1 7. 自然保護区の野生動物管理

- ・世界自然遺産地域
- ・国立公園

1 8. 野生動物の資源利用

- ・食肉利用
- ・認証制度

1 9. 風力発電とバードストライク

2 0. アーバン・ワイルドライフ

2 1. 野生動物保全と順応的管理

各論

1. 個体数推定

- ・調査方法（自動撮影カメラ、密度指標、DNA 計）
- ・推定原理（最尤法、ベイズ）
- ・推定モデル(Harvest-based, mark-recapture など)

2. 被害防除対策（捕獲、柵の設置、生息地管理、新技術）

3. 捕獲技術（錯誤捕獲についても記述）

4. 特定鳥獣保護管理計画の策定

5. 鳥獣被害防止計画の策定

6. ニホンジカ（生態、被害、対策）

7. ニホンイノシシ（生態、被害、対策）

8. ツキノワグマ（生態、被害、対策）

9. ヒグマ（生態、被害、対策）

1 0. ニホンザル（生態、被害、対策）

1 1. 中型哺乳類（キツネ、タヌキ、アナグマ）

1 2. 大型鳥類（コウノトリ、トキ、タンチョウ）の野生復帰

資料7

13. 海獣類（トド、ゼニガタアザラシ）の漁業害と管理

14. 外来野生動物

15. ノネコ

16.

読者対象

※関連研究者，自治体や関連企業の実務家，大学図書館，公共図書館.

その他

※法律自体は変わったばかりなので，本書を製作中にまた大きく変わり内容が古くなって
しまうというリスクは低い.

「野生動物の保全と管理の事典」(仮称) 出版企画

「野生動物の保全と管理の事典」(仮称) の概要

- ◆ B5 判, 600 ページ, 予価 18000 円
- ◆ 本年中に執筆依頼, 23 年 12 月までに完成原稿そろそろ (23 年 9 月 20 日原稿締切), 25 年 4 月刊行
- ◆ 中項目形式ではなく、『野生動物保護の事典』と同様大項目形式 (総論→各論と順を追った教科書的な構成)
- ◆ 読者対象 初学者、関連研究者、自治体や関連企業の実務家、大学図書館、公共図書館
- ◆ (章) の単位では, 1 つあたり平均 15 ページ程度;
1 ページあたりの文字数は 1800 字程度 (見出し, 図表, 文献含む)

本書の目的

今日、人口縮小が急速に進行するなかでニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、クマ類などの在来の野生動物の分布拡大と生息数増加が生じ、農林業被害の増加のみならず、都市域にも出没して野生動物とヒトとの軋轢が加速化している。また、野生動物とヒトとの境界があいまいになったために、野生動物による感染症が新たなリスクとして認識されるようになった。さらには、アライグマなどの外来野生動物の野生化と分布拡大も懸念されている。一方、かつて絶滅危惧種であったコウノトリ、トキ、タンチョウなどの大型鳥類は野生復帰事業が成功して、新たな生息地に分散・定着が進む一方で農業被害などのリスクが生じている。また、風力発電とバードストライク対策も新たな問題となっている。本書は、人口縮小社会における野生鳥獣類のリスク管理と持続的な資源利用の在り方を行政施策や産業と関連づけながら示すことにより、科学に基づく野生動物管理の原理原則を明らかにするものである。

対象種 鳥獣保護管理法の対象となる野生鳥獣類、海獣、野生復帰が進むコウノトリ、トキ、タンチョウ、外来種

内容 コアカリ用教科書 『実践 野生動物管理学』(培風館) の項目を参照し、よりよく知るための事典とする。用語の定義、法律と政策 (環境省、農林水産省)、獣種別の被害と対策、森林管理、個体群動態と管理、野生動物管理システム、農林水産業と鳥獣害のかかわりを明確にする。風力発電とバードストライク対策

編集委員会 (案)

「野生生物と社会」学会(編)／日本哺乳類学会・日本鳥学会 (編集協力)

編集委員

梶光一（編集委員代表、東京農工大学名誉教授）、鈴木正嗣（岐阜大学）、横山真弓（兵庫県立大学）、山端直人（兵庫県立大学）、松田裕之（横浜国立大学）、小池伸介（東京農工大学教授）、大沼学（国立環境研）、綿貫豊（北海道大学教授、日本鳥学会会長）、亘悠哉（森林総合研究所）

スケジュール

第一回編集会議（8月8日） 大枠を討議

- ・本のコンセプトの確認
- ・総論を「(専門もしくは専門に近い) 編集委員」に割り振る。
- ・当該の編集委員に「総論として記す事項」と「各論とすべき事項」を整理する。

第二回編集会議（10月20日） 項目と執筆者を検討

22年12月までには執筆依頼の完了を目指す。

環境社会学会 企画セッション

【日時】12/10（土）午後 2.5 時間を予定

【開催方法】Zoom

【仮テーマ】

「アフリカ熱帯林地域における資源利用の実態と住民参加型森林資源管理のあり方について」

カメルーンで実施されている以下のプロジェクトから 4 名をお招きし、熱帯林における野生動物資源、その他の林産物資源の地域住民による持続的な利用を担保しつつ、資源保全を両立していくあり方を模索します。具体的には、狩猟採集民ピグミーの人びとが生活している地域ですので、彼らの狩猟・採集活動を、科学的な管理と接続する試みです。住民が活用できる方法での狩猟対象動物の個体数モニタリング手法を開発しています。

SATREPS プロジェクト

「在来知と生態学的手法の統合による革新的な森林資源マネジメントの共創」

（研究代表者 安岡宏和・京都大学）

<https://www.africa.kyoto-u.ac.jp/archives/info/series2020>

【当日の話題提供者】

メインテーマは「保全」。プロジェクトの各活動リーダーがそれぞれ報告（全体で 90 分）

●安岡宏和（京都大学）：

コメカプロジェクトのコンセプト紹介・研究成果に基づいて実装に向けた活動をすすめるうえでの課題等（20 分）

●本郷 峻（京都大学）：動物モニタリングとマネジメントモデル（20 分）

●戸田 美佳子（上智大学）：開発・保全と NTFPs 利用の関係（20 分）

●平井 将公（京都大学）：実践的な取り組みとその課題（20 分）

【コメンテーター】（コメント各 10 分？、ディスカッション 40 分）

●笹岡 正俊（北海道大学）打診中

●梶 光一（東京農工大学名誉教授、兵庫県森林動物研究センター所長）打診中

【企画委員】

岩井雪乃（「野生生物と社会」学会、環境社会学会）

寺内大左（環境社会学会）